

高出力同軸ケーブル用SPD CS-NPJ50-V1600



JIS
カテゴリ
C2・D1

形 式

CS-NPJ50-V1600

特性表

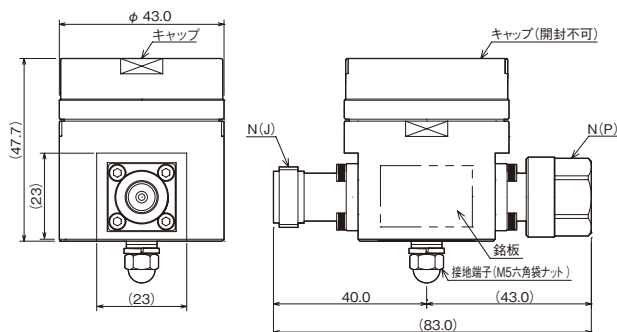
形 式	伝送 周波数 帯域	最大連続 使用電圧 Uc	許容電力 ^{注1)}	挿入損失		VSWR		コネクタ	インピー ダンス	電圧防護 レベル Up	インパルス耐性 ^{注2)}	
				100kHz ~ 1.5GHz	100kHz ~ 2.1GHz	100kHz ~ 1.5GHz	100kHz ~ 2.1GHz				C2 (8/20μs)	D1 (10/350μs)
CS-NPJ50-V1600	100kHz ~ 2.1GHz	250V DC	3000W	0.1dB以下	0.2dB以下	1.1以下	1.2以下	N型	50Ω	1900V以下	10kA	1.0kA

注1) 許容電力6000Wなどの特殊仕様についてもご用意しています。

注2) カテゴリC2、D1に対応。インパルス耐性 C2:8/20μs10kA(正負・各5回・計10回)、D1:10/350μs 1.0kA(正負・各1回・計2回)

外形寸法図

質量:約400g



接地線使用電線サイズ:5.5mm²~8mm²

JIS C 5381-21対応

特 長

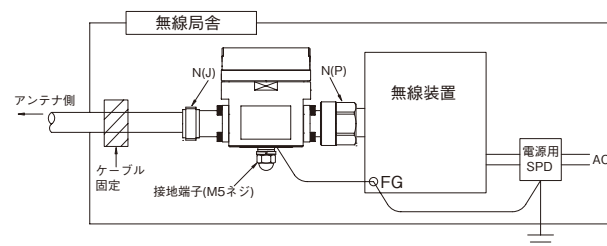
1. 許容電力 3000W
許容電力6000Wなどの特殊仕様についてもご用意しています。
2. 各種無線装置を雷サージから保護
3. 優れた高周波特性
4. 外部導体の特殊メッキ採用による高品質、高性能
接触性能、高周波特性の向上と優れた耐候性
5. 確実な締め付け可能なカップリング構造
カップリングナットのスパナかけ構造により工具を用い確実な締め付け管理が可能
6. RoHS規制物質対応

用 途

各種無線通信の送信または受信^{*}
情報管理装置の雷保護
レーダー情報処理システムの雷保護

※送受信機での使用についてはお問い合わせください。

取り扱い



※N型コネクタプラグ(N(P)): 締め付けトルクは2.5N・m~5.0N・mとしてください。
(手締めした後、軽く増し締めする程度)

接地端子(M5ネジ): 締め付けトルクは2.5N・m~3.0N・mとしてください。

保守点検については、➡ P119をご参照ください。

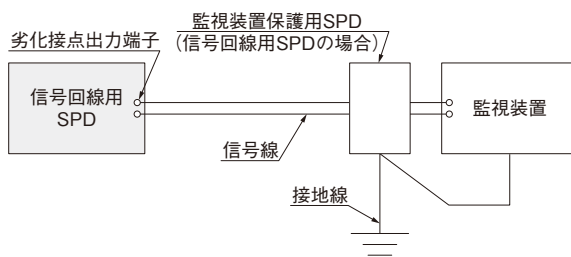
信号回線用SPD、電話回線用SPD、LAN用SPD、同軸ケーブル用SPD 保守点検共通事項

1. 劣化接点出力端子使用時の注意事項

劣化接点出力端子に信号線を配線して遠隔監視を行う場合、信号線から侵入する雷サージから貴社の監視装置（劣化検出装置）を保護するために、信号線の監視装置直近に信号線の電圧に応じた信号回線用SPDの設置をお願いします。

信号回線用SPD

接点回路電圧	推奨SPD	接点回路電圧	推奨SPD
AC100V	LT-121	DC24V	SL-GV24J
AC200V	LT-122	DC48V	SL-GV48J
DC12V	SL-GV12J	DC100V	LT-121



2. SPDの点検について

(1) 点検時の注意事項

SPDの点検は、SPDに故障が無く被保護機器に対する保護性能が維持されていること、また、故障に至る前の劣化状態を発見し早めの交換を実施することが目的です。機器の保護が無い状態を発生させないために実施をお願いいたします。

詳細な点検内容については、各機種の取扱説明書に記載しておりますのでご確認ください。

SPDに触れる点検を実施する場合は、SPDに通電の無いことを必ず確認の上、感電に注意して実施してください。点検中は通信断となる場合があります。

(2) 保守点検の種類

保守点検の種類と実施が望ましい項目を下表に示します。

保守点検の種類

点検の種類	点検内容	方法	点検周期（推奨）
日常点検	外観検査 機能表示の状態確認 ^{注1)}	目視	1ヶ月に1回以上
定期点検	外観検査 機能表示の状態確認 ^{注1)} 絶縁抵抗測定 動作開始電圧、DC放電開始電圧 ^{注2)}	目視 測定	6ヶ月～1年に1回
臨時点検	外観検査 機能表示の状態確認 ^{注1)} 絶縁抵抗測定 SPD本体（ユニット）部取り外し確認 ^{注3)} 動作開始電圧、DC放電開始電圧 ^{注2)}	目視 測定	・襲雷後や何らかの通信不良等発生時 ・サージカウンタの動作回数が前回測定時より増加している場合

注1) SPD機能表示がある機種の場合

注2) より詳細な確認の場合、測定にはSPDチェッカー等の専用機材が必要です。

注3) 通信不良時のみ確認。プラグインタイプの場合

①外観検査

SPDの外装ケースに変色や変形が無いこと、また表面に粉塵やススなどの異物が付着していないことを確認してください。プラグインタイプのSPDは支持台（端子台）を含めて確認してください。

②機能表示の状態確認（機能表示付きSPDのみ）

SPD表面の機能表示が故障を示していないことを確認してください。状態確認方法は機種によって異なるため、対象機種の取扱説明書をご確認の上点検してください。SPDの劣化接点出力機能を使用している場合、運用方法に合わせてご確認ください。（機能表示と劣化接点出力は連動していますので、機能表示が故障を示していた場合、接点出力も切り替わります。）

③絶縁抵抗測定

SPDを系統から電氣的に切り離れた後、SPDの各端子間の絶縁抵抗を測定してください。SPD測定端子および測定電圧、良否判定値は機種によって異なるため、対象機種の取扱説明書をご確認いただくか、弊社にお問い合わせをいただいた上で測定を行ってください。

④SPD本体（ユニット）部取り外し確認（通信不良等の異常が確認された場合）

プラグインタイプの信号回線用SPD、電話回線用SPDの場合、SPD本体（ユニット）部を抜き取って回線が正常に戻るか確認し、以下の通り対応してください。

正常に戻る場合：支持台（端子台）部は正常でSPD本体（ユニット）部のみ故障している可能性があるため、絶縁抵抗試験、動作開始電圧や放電開始電圧の点検を行った上、異常があれば交換してください。

正常に戻らない場合：支持台（端子台）部が故障していると考えられ、SPD本体（ユニット）部も劣化していると考えられるため、SPD本体（ユニット）部および支持台（端子台）部共に交換してください。

⑤動作開始電圧、DC放電開始電圧測定

より詳細にSPDの状態を点検する場合は、動作開始電圧や放電開始電圧の測定をすることで、SPDの健全性確認が可能です。現場向け簡易測定用として、「SPDチェッカー AT-2KH P197」をご用意しております。測定項目、測定箇所、良否判定値は機種によって異なるため、詳細は弊社までお問い合わせください。



SPDチェッカー